
ラフメイカー

カトベリス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラフメイカー

【Nコード】

N7790G

【作者名】

カトベリス

【あらすじ】

泣いている男性のもとにある人物がやってきた。

(前書き)

この物語はBUMP OF CHICKENのラフメイカーをちよっぴりギャグ風味に書きました。作者の勝手なイメージで出来ていきますので、覚悟して読んでください。

ずっと部屋にこもって泣いていた。

理由？

そんなのは聞かないでくれ。

コンコン。

ずっと泣いてたから

顔がすごいコトになっている。

こんな顔じゃ誰にも会えない。

もう、なんだよ。

どこのどちら様だ？

このKYは。

「どちら様？」

「名乗る程たいした名前じゃないけど・・・

「じゃ、名乗るな。」

「・・・誰かは俺をラフメイカーって呼んでるよ。」

「ホントにたいした名前じゃねエな。」

「ヒドいなあ……。」

あんたに笑顔を持ってきたんだ。

その前に、寒いから入れてくれると嬉しいんだけど。

あゝ、マジ寒い。

これ、風邪ひくわ。」

なんだ？コイツ。

ラフメイカー？

笑顔を持ってきた？

寒いから入れてくれ？

なんだよ、もう。

寒いから入れてくれって……知らねエよ、そんなコト。

寒いんだったら防寒しっかりして来いよ。

「てか、なんでオレが泣いてるコト知ってるんだよ。」

「涙の落ちる音が聞こえたんだよ。」

「嘘だろ。」

「ホントだよ。」

「ここに来る途中、わからなくなつて、近くにいた人に聞いたんだ。」

「なんて？」

「すみません。」

「この辺りでついさつき、涙の落ちる音が聞こえた気がして来たんですけど、誰の涙が知りませんか？」

「つて。」

「その人の目が赤かったから、その人かなって思ったんだけど、花粉症だつて……。」

「で、わからなかったから、この辺りの家のドアを片っ端からノックして、やっと見つけたんだ。」

「……こんなヤツを家に入れる？」

「冗談じゃない。」

「もう、帰ってくれ。」

そこにいられたら泣けねえだろ。

数分が経過した。

コンコン。

「どちら様？」

「ラフメイカーです。」

あの野郎まだいやがったのか？

「なんだよ？」

「あんたが泣いてる理由を聞きにきた。」

「そんなコト聞かないでくれって言っただろ。このKY。」

帰ってくれって言っただろ！」

「そんな言葉を言われたのは生まれて初めてだ。」

「さっき傷つくようなコト言ったのに泣かなかったじゃん。」

「どうしよう……。」

泣きそうだ……。」

初めてとか、どんな人生送ってきたんだよ？

てか、あんたが泣いてちやしょうがないじゃん。

泣きたいのはオレの方だ。

オレとラフメイカーは
泣いた。

泣き止んで、オレはラフメイカーに聞いてみた。

「なあ、ラフメイカー。」

今でもオレを笑わせようと思ってんのか？」

「泣いてる人を笑わせるってコトが生きがいなんだ。」

笑わせないと帰れないし、笑わせるまで帰る気もしない。」

ホントにヘンなヤツだ……。

こんなヘンなヤツ初めてだ。

どんな顔なんだろう。

ドアを開けようとあちら側に押しててみた。

しかし、泣き疲れたからか、ドアが開かない。

「おい、ラフメイカー。

中に入れてやるから、そっちにドアを引いてくれ。

鍵はもう開けたから。」

返事がない。

「おい、なんか言ってくれよ!」

それでも返事はない。

「ウンとかスンとか言ってくれよ。」

どうしたんだ？

泣き疲れて寝てるのか？

でも、心配がない。

・・・まさか！

「おい、ラフメイカー！
ふざけんなよ！

今更オレ独りだけ残して帰るなよ！」

中に入れてもいって思った瞬間消えやがった。

「ラフメイカー！

・・・冗談じゃねエ。」

パリーン

玄関と逆側の窓が割れる音がした。

行ってみると、そこには・・・

「よ。あなたに笑顔を持ってきた。」

鉄パイプを持った、
泣き顔の男が・・・

ラフメイカーがいた。

ラフメイカーは小さな鏡をオレに渡した。

「あなたの泣き顔、笑えるぞ。」

呆れながら、鏡を見た。

鏡に映ってるオレは
ひどい顔をしていた。

・・・たしかに、笑える。

「あなさ・・・」

オレはラフメイカーに言った。

「窓、弁償しろよ。」

「（川）」

それから、ラフメイカーはバイトをやりまくりでした。

（後日）

「そついえば、あんた、
なんで泣いてたんだ？」

「……ヒミツ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7790g/>

ラフメイカー

2010年10月21日22時00分発行